

授業科目名	地域暮らしの安全学		
単位数	2	授業形態	講義
担当教員	則定 百合子、大泉 英次、小川 宏樹、平田 隆行、中村 太和、照本 清峰		
開講	南紀熊野サテライト	区分	学部開放科目
実施日・時間	12月7日(土) 13:00~17:00 担当: 則定 百合子		
	12月14日(土) 13:00~17:00 担当: 大泉 英次		
	12月21日(土) 13:00~17:00 担当: 小川 宏樹		
	1月11日(土) 13:00~17:00 担当: 平田 隆行		
	1月18日(土) 13:00~17:00 担当: 中村 太和		
	1月25日(土) 13:00~17:00 担当: 照本 清峰		

【講義内容】

暮らしの中にはさまざまな危険が存在します。特に大きな危険は地震や災害です。南海トラフの巨大地震の新想定は、当該南紀熊野地域に大きな影響を与えています。この講義では「防災・災害」を直接取り上げるのではなく、「暮らしの安全」を切り口として、個別課題をテーマ化して学習します。今後、地域内における受講生同士の繋がりを築くためにも、議論の時間を設けます。

第1回 災害と心のケア (教育学部 則定 百合子)

近年、我が国では、災害時の緊急支援や心のケアに対する意識が高まっています。この講義では、いつどこで遭遇するか分からない未知の災害が起こったときに生じ得る諸問題や災害後の心のケアについて考えます。

第2回 まちづくりと暮らしの安全 (経済学部 大泉 英次)

暮らしの中にひそむ危険(リスク)は、自分の力だけでは対処できないものもたくさんあります。経済のリスク、生活のリスク、そして災害のリスク。さまざまなリスクをとりあげながら、それに備える共助と公助のありかた、そしてまちづくりを考えます。

第3回 災害時要援護者対策/安心・安全の都市計画 (システム工学部 小川 宏樹)

高齢者や身体障害者など、災害時に必要な情報を把握し安全な場所に避難するなどの行動をとるのに支援を要する人々に対する国や地方自治体、また地域の対策について学びます。さらに、災害発生時においても被害を最小限に抑え、災害時要援護者だけでなく全ての住民が避難を必要としない安心・安全の都市づくりについて学びます。

第4回 海辺に住まう・紀南漁村の防災むらづくり (システム工学部 平田 隆行)

津波に備える方法には、防潮堤と防災集団移転の2つがあります。しかし、それは海と漁村を切り離すことでもあります。津波を防ぐことと、海のめぐみを受けとめること、そのバランスを考えながら村づくりを考えなくてはなりません。避難、仮設、高所移転、防潮堤など、漁村の防災むらづくりを考えます。

第5回 大規模災害とライフライン (元経済学部・中村 太和)

大規模災害においては電力・ガス・水道などのライフラインが長期にわたって途絶する。“ライフラインからライフスポットへ”という視点から自然エネルギーを中心に対応を考えます。

第6回 応急対応と復旧・復興対策 (徳島大学環境防災研究センター 照本 清峰)

大規模な災害後に生じる応急対応から復興計画までの問題を考えます。孤立地域等に生じる応急対応の課題、生活再建や産業再建の課題について事例をまじえて説明します。それらをもとに、事前からの対策、支援施策のあり方について議論します。

【テキスト・教材】 基本的には講義ごとに資料を配付します。

【事前学習】 新聞やテレビの報道などで「災害」や「暮らしの安全」について考え、講義にのぞんでください。